

坂総合病院群基礎研修プログラム

－2024年度版－

(プログラム番号 : 030050701)

公益財団法人宮城厚生協会 坂総合病院
研修管理委員会

坂総合病院群 基礎研修プログラム(030050701)

病院名：坂総合病院（基幹型臨床研修指定病院）

開設者：公益財団法人 宮城厚生協会

病院長：富山 陽介

所在地：〒985-8506 塩竈市錦町 16-5

連絡先：電話 022-367-9007(医局)

FAX 022-365-6555

<https://www.m-kousei.com/saka/>

【研修プログラムの特色】

この地で100年の歴史を持つ当院は、地域医療に必要な後継者を50年来、自ら養成してきた。当初からのローテーション形式による初期研修教育の実践と、約400名に及ぶ初期研修指導の経験が当院の研修プログラムを形作っている。

プログラムの特色として以下3点を挙げる。

- ① 循・呼・消各科12週(3ヶ月)計36週(9ヶ月)の内科研修において、内科系のCommon Diseaseを幅広く経験する。
- ② 地域医療研修は小規模病院でのブロック研修12週(3ヶ月)に加え、在宅訪問診療に通年で携わり、地域医療の果たす役割への理解を深める。
- ③ 救急外来・一般外来・訪問診療など疾患横断的な外来診療を通年で行ない、2年間を通じてプライマリ・ケアを経験する。

研修医は救急診療から入院での専門的治療、外来診療、在宅診療に至るまで、上級医・指導医・多職種の支援を受けながら主体的に診療に携わる。様々な側面から医療を経験することが多角的な視野を持つ医師の成長につながると考える。

長年の研修・教育の実践の背景には患者や家族の理解があり、その患者・家族からの学びが医師の成長を真に促す。また、多職種が初期研修に積極的に関わることで、より良い研修環境を構築すると共に、柔軟な思考を持ちチーム医療の中で活躍できる医師を育成できると考えている。

尚、2年間の初期研修の後に3年目のTransitional year研修を選択することが出来る。

【研修プログラムの目標】

第一線こそが医療そのものであり、医学発展の幅広い裾野を形成している。新卒医師は第一線で働く中で医師としての基礎を作りあげる。患者の持つ社会性・地域性を視野に入れ、6年間で学んだ医学・医療を現場で実践・洗練していくことが求められる。

初期研修の目標として以下3点を挙げる。

- ① 臨床医としての基本的知識・技術・素養を身につける。
- ② 社会性・地域性を視野に入れた問題意識と感性を、臨床を通して豊かにする。
- ③ 将来の自己の医師像・専門分野の方向性をつかむ手掛かりとする。

【プログラム責任者】 藤原 大（リハビリテーション科診療部長・科長）

【副責任者】 船山 広幸（内科診療副部長）

【研修分野及び期間と施設】

＜基礎研修＞

導入研修	*4 週間	坂総合病院
内 科	*36 週間	坂総合病院、泉病院、長町病院、古川民主病院、鶴岡協立病院、至誠堂総合病院
外 科	12 週間	坂総合病院
救急部門	*8 週間	坂総合病院
小 児 科	*8 週間	坂総合病院
産婦人科	4 週間	坂総合病院
精 神 科	4 週間	緑ヶ丘病院、藤代健生病院、宮城県立精神医療センター
地域医療	*12 週間	泉病院、長町病院、古川民主病院、鶴岡協立病院、至誠堂総合病院、川久保病院、坂総合病院附属北部診療所、松島海岸診療所、本間病院、さわやかクリニック
一般外来	*4 週間	坂総合クリニック、泉病院 他、地域医療研修施設
選択研修	*16 週間	坂総合病院、各協力型病院、協力施設

- *1 導入研修 4 週間のうち後半約 2 週間は第 1 ローテート科に配属する。
- *2 内科研修は循環器科・呼吸器科・消化器科を 12 週間ずつローテートすることを基本とする。
- *3 救急部門は、救急部でのブロック研修 8 週間に加え、並行研修として内科・外科・小児科研修期間に行なう救急車当番及び通年で行なう時間外救急外来(当直)を 2 年間で 40 単位(半日 1 単位)以上行ない、12 週間の研修とする。
- *4 小児科研修は 8 週間の原則とするが、選択研修期間の拡大を希望する者については研修管理委員会の承認をもって最小 5 週間まで短縮することが出来る。
- *5 地域医療は泉病院でのブロック研修 12 週間に加え、並行研修として在宅診療・健診・地域研修(友の会班会)を通年で、半日を 1 単位として 20 単位程度行なう。
- *6 一般外来研修は、内科第 2・3 ローテート中に 1/w の一般内科外来を固定で担当することで約 3 週間分(0.7 単位×24 回)を実施する他、小児科・外科・産婦人科・地域医療の各ローテートにおいて一般外来研修を経験することで 4 週間以上の研修とする。
- *7 選択科目は各必修科目のほか、麻酔科・整形外科・リハビリテーション科・糖尿病代謝科・形成外科・病理科・漢方科・眼科などから選択できる。指導医不在などにより基幹型の坂総合病院では研修が行えない診療科での研修を希望する場合は、東北大学等での研修実施について相談に応じる。尚、ゴールデンウィークや年末年始休暇、本人都合による長期休暇等により、必修科目で定めた研修期間が確保できない場合には、選択研修の枠を利用して必要な研修期間を確保する。

＜Transitional year 研修＞

希望者は 3 年次に Transitional year 研修を行なうことが出来る。幅広い総合力をつけてから専門領域へ進みたい、希望進路の関連領域での知識や技術を身につけたい、進路をじっくりと考えたいなど、個々の希望にあわせてフレキシブルに研修を組み立てる。希望する複数の科での重点研修(3~6 ヶ月)や、将来の志望科ごとの推奨コースの他、小規模院所や診療所で地域プライマリ・ケアを中心とした研修を行なうことも可能である。

＜ローテーション例＞

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年目	導入	内科 12w			内科 12w			外科 12w			救急 8w	
2 年目	精神	産婦	小児科 8w		内科 12w			地域医療 12w			選択 8w	
3 年目	Transitional year 研修(希望者)											

【研修実施責任者】

坂総合病院	副院長	渡部 潔 (研修管理委員長・病院群全体責任者)
坂総合病院	リハビリテーション科診療部長	藤原 大 (プログラム責任者)
坂総合病院	内科診療副部長	舩山 広幸 (プログラム副責任者)
長町病院	リハビリテーション科科长	阿部 理奈
泉病院	脳卒中科科长	浅利 まみ
古川民主病院	院長	呉 賢一
緑ヶ丘病院	医局長	竹田 友彦
宮城県立精神医療センター	副院長	舩越 俊一
鶴岡協立病院	副院長	高橋 牧郎
至誠堂総合病院	理事長	中島 幸裕
藤代健生病院	院長	関谷 修
東北大学病院	卒後研修センター長	石田 孝宣
桑野協立病院	医局長	栗原 修司
川久保病院	院長	田村 茂

【臨床研修協力施設の研修実施責任者】

坂総合クリニック	所長	高橋 洋
坂総合病院附属北部診療所	所長	宮沼 弘明
松島海岸診療所	所長	菅野 耀介
さわやかクリニック	所長	浮田 昭彦
本間病院	外科医長	本間 理

【研修医の指導体制】

各科ごとに指導責任者を置く。日常の指導は担当指導医・上級研修医が直接指導する。

看護部門・薬局・検査部門・事務部門など、研修に関わる各職場に指導者を置き、直接指導と評価を行う。

卒後研修センターに専任担当者を置き、ローテート調整・研修進捗の把握・評価の集約などを行なうとともに、日常的な相談窓口として研修全般をサポートする。

指導医によるメンター制度、上級研修医によるチューター制度(当直フィードバック)など、マンツーマンでのフォローも行なっている。

【研修内容】

はじめの約2週間は、基本的な知識・技術の確認と、臨床研修の目標に対する問題意識や課題を自己認識すること、同期の世代づくりなどを重視し、集団で行なう導入研修としている。

その後、必修各科のローテートを行う。上級医のもとで病棟を中心に担当医として患者の診療にあたりながら、地域の一般病院として必要な様々な医療場面に参加する。研修目標は各科ローテーション開始時に指導医とともに確認し、中間・終了時の総括でフィードバックを行なう。ローテートは研修医の希望を同世代内で調整して決定する。

初期研修修了後、専門研修を希望する場合は、内科・総合診療の基幹プログラムと、外科・産婦人科・リハビリテーション科・小児科などで連携プログラムの研修を行なうことが可能である。その後引き続き当院のスタッフとして勤務を希望する場合は、「内地留学」と称して大学や疾患センターへの一定年限の出向研修を制度化している。

【評価方法】

研修到達に対する評価は以下の内容で行なう。

(1) EPOC

厚生労働省の定める臨床研修の目標に対する到達状況は、EPOC システムを利用して記録し、指導医の評価を受ける。

(2) ローテート各科総括

各科の研修目標に沿って総括表を記載し、ローテート修了時に指導医の評価を受ける。

(3) 多職種による 360 度評価

ローテート修了時に関連する各職場の指導者からアンケート形式の評価を受ける。

(4) 中間総括・最終総括 OSCE

1 年次修了後と 2 年次の修了時に、医療面接・実技試験・筆記試験からなる OSCE を行なう。OSCE での評価結果は個別にフィードバックするとともに、研修修了判定会議の資料とする。

(5) 5 症例レポート

研修修了時まで、印象に残った症例 5 つについて「認定内科医試験方式」の病歴要約を作成し、指導医の点検・評価を受ける。

【募集定員】 1 年次：11 名

【募集方法】 公募（マッチング参加）

【選考方法】 病院実習・面接・小論文

【処遇等】

身 分：常勤職員

勤務時間：月～金 8：30～17：00

土 8：30～12：30

時間外勤務有、当直月 3 回程度

休 暇 等：4 週 6 休制、有給休暇は初年度 20 日、リフレッシュ休暇 7 日、その他特別休暇有

住 宅 等：研修医用宿舎無（但し住宅手当補助 30,000 円を支給）、研修医室 2 室

保 険 等：社会保険・厚生年金・労災保険・雇用保険有

医賠償は病院で加入とし、個人加入は任意。

学 会 等：学会・研究会への参加可。参加費用補助有

健康管理：健康診断年 2 回実施 メンタルヘルスチェック年 3 回実施

給 与：1 年次 約 520 万円、2 年次 約 540 万円（賞与含む、当直・時間外除く）

出産育児：院内保育所・夜間保育有、産前産後休暇各 8 週、育児休業・哺育時間有

短時間勤務制度、配偶者出産休暇等

そ の 他：研修プログラムに登録されていない病院及び施設での診療は禁ずる